

## 第2回総合教育会議 会議録

1 日 時 平成27年9月28日(月) 午後3時30分 開会

2 場 所 東松島市役所 202会議室(2F)

3 出席者 東松島市長 阿部 秀保

東松島市教育委員会 教育長 工藤 昌明

東松島市教育委員会 委員長 齋藤 英彦

東松島市教育委員会 委員 菊池 伸之

東松島市教育委員会 委員 福田 ゆかり

(事務局)

東松島市総務部長 川田 幸一

東松島市総務部総務課長 小山 隆

東松島市総務部総務課秘書広報班長 高松 美信

東松島市教育委員会教育次長 小山 修

東松島市教育委員会教育総務課長 高橋 ひさ子

東松島市教育委員会学校教育課長 山野 和好

東松島市教育委員会生涯学習課長 齋藤 敏文

東松島市教育委員会教育総務課教育総務班長 奥田 和朗

4 傍聴者 なし

5 開会

阿部市長 皆さんお疲れ様でございます。今日は平成27年度2回目の総合教育会議ということで、お忙しいところご参集くださいましてありがとうございます。

前回は6月25日に第1回ということでこの場所で開催させていただきました、その議題は総合教育会議の運営について、それから教育等の振興に関する大綱についてということで、皆様からご意見を頂戴して2回目それを反映しようということで、今日が第2回目となりました。事務局から説明がありますがけれども、振り返りますと総合教育会議における協議、調整事項ということでは、特に岩手県や仙台市内でいじめ等の事件が報道されたとおりでありまして、児童や生徒の生命または身体に現に被害が生じ、またはまさに被害が生じる恐れがあると見込まれる場合等の緊急時に講ずるべき措置についての協議をするということで、そういう意味からすれば今の時代というのはだいぶ人権が尊重されまして、いかに自分がどのように思うかということが重要視される世の中になってまいりましたので、振り返りながら新しいこれからの社会づくりに取

り組まなくてはならないなと思っているところでございます。

市におきましては来年の28年度から10年間の総合計画がスタートしますので、その策定中でございます。その会議の最後を決める場面では、齋藤教育委員長が副会長に互選されまして、教育委員会がしっかりと関わっていくという形ができたのかなと思っておりますので、そういった意味では来年からの10年間で踏まえてしっかりとこの大綱についてまとめていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

今日は市では震災から4年半が経過しまして、やっと一番大きな東矢本駅北側、あおい地区と命名しまして、全580世帯がお住まいになるわけですが、その分の画地の分ということで、家を建てる画数273区画を3回に分けて全部引き渡しました。来年のお盆前までには災害公営住宅もできて、周辺的环境も含めて東矢本駅北あおい地区につきましては終了する予定です。そうすると残りは野蒜地区ということになります。併せて鳴瀬学区小中学校の環境もしっかりと手順を踏んで、議会でも先日やっと宮野森小学校の建築につきましてはスタートできることになりましたので、何とか予定通り頑張っていきたいと思っておりますので、そちらの方もよろしくお願いいたします。長くなりましたけれどもご参集に改めて感謝申し上げて開会のあいさつといたします。今日はどうぞよろしくお願いいたします。

## 6 議事

教育等の振興に関する施策の大綱について事務局より説明

## 7 意見交換

阿部市長 事務局の方から基本目標の修正について説明がありました。確認も含めてご発言あれば挙手の上でお願いいたします。いかがでしょうか。

(意見なし)

阿部市長 よろしいですか。できるだけ大きく包含するために文言の修正ですがよろしいでしょうか。

それではこのように決めさせていただきます。

阿部市長 それでは次に「(2) その他」ですが、情報共有ということで前回の6月25日から今日までの間で何か情報共有があればお願いします。

(高松秘書広報班長より今年度および来年度の会議開催予定について説明)

阿部市長 事務局からの説明について、確認を含めてご意見があればお願いします。

齋藤委員長 話を少し戻してしまうのですが、資料2-1「教育等の振興に関する施策の大綱(案)」の4番②「地域ぐるみで子どもたちを育てる体制づくり」の中に、コミュニティ・スクール導入事業ということですので未来中が取り組んでいますが、実は本市の第2次東松島市総合計画の具体的な施策の中には入っていません

ん。それでさっき教育委員会の前に復興政策班に行って、コミュニティ・スクール制度のことは計画の中に加えてくださいというお話をしてまいりました。

もうひとつはその1行下ですが、「子どもの成長に応じた教育や支援を行い」の次に、私は個人的に、「志の高い」を入れたいと思っています。「志の高い」か「志を高め」か、その辺は教育長が国語に詳しいと思いますが、実は宮城県は志教育ということで一生懸命取り組んでいまして、本市のコミュニティ・スクール制度の目標の中に子どもたちの志を育てていくというのがあるんですね。この基本目標にはその言葉が出てきていないので、「志を高め」か「志の高い」を入れていただければと思います。

阿部市長 齋藤教育委員長から基本目標②についてご提言がありました。1つはコミュニティ・スクール制度について来年10年間の第二次総合計画の中に表現がされていないので担当課に調整をお願いしたということ、それから「ふるさとを大切にす次世代」の前に「志を高め」あるいは「志の高い」という文言を入れてはどうかというご提言で、これについては休憩を入れて説明いただきたいと思います。暫時休憩と致します。

(休憩)

阿部市長 それでは再開いたします。齋藤委員長のご提言については、事務局で調整後、次回発表するというようにさせていただきたいと思います。他にはいかがでしょうか。

工藤教育長 今回の2回で終わるというお話でしたが、可能であれば先ほど齋藤委員長からお話をいただいた第二次総合計画の教育に関わる部分を議題にもう一度開催していただけないかと思います。というのも市の大きな方向をお決めいただくわけで、教育委員としても一度は発言の機会があってもよろしいのではないかと、またよその市はあまり関係ないかもしれませんが、他の市町村の状況を見ますと例えば来年度予算を決める段階で、一度来年度の教育行政の施策の方向性についての説明と質疑のようなことをやっている市町村もございます。それも参考にしながら、じつはあまり教育委員というのは予算書というのを見る機会がありません。結果を見ることはあっても、その前にというのはないので、可能であればその辺もご検討いただければと思います。

阿部市長 ただいま教育長から、大切な第二次総合計画の策定が決定する前、要するに12月議会に議決いただく前に当然議会にも説明会があると聞いていますし、併せて教育委員会の方も、まとめの一手手前で目を通したいというご意見がありました。これも大切なことだと思いますので、スケジュールについては事務局にお任せして、もう1回くらいお願いしたいという教育長からのご意見ですが、私としても大変良いことだと思いますので、そういった形にしたいと思いますのでよろしく願いいたします。

その他いかがでしょうか。なければ休憩中にリラックスしながらお話しして

いただきたいと思います。

予算の仕組みですが、教育委員会は教育委員会で議論をして財政担当とヒアリングをします。私的にはもちろん公平公正にするのですが、決められた歳入というか、一般家庭で言えばお父さんが働いて給料を持ってきてその中でやり繰りするけれども、どうしても必要であれば銀行、国からお金を借りてやらなくちゃいけないということです。今現在の予算の仕組みというのは、おかげさまで東松島は住宅が市内7つの集団移転地だけではなくて、それぞれの市街化区域だったり市街化調整区域がもともと農家だったので、被災すると家を建てる権利があるということで、そういう意味では順調に家が建っています。ほぼ震災前と同じ位の固定資産税になっています。それはなぜかというと、古いと固定資産の評価が低いのですが、新しいと皆さん方にとってはこんなに取られたと、私のところはお預かりする方ですからすごく効率的というか、すごく預かり金が多くなるということで、固定資産税についてはほぼ見通しが立ってきたかなというところですが、ただ、これからは高齢化社会ですので今後は社会保障と一口で言われますが、医療も含めて減ることがないわけです。ですからその辺のやり繰りというか、担当でも数字を出して、教育含めて今は復興が最優先ですが、先がそんなに明るいとわけではありません。明るくするためには企業誘致だったり6次化など、農業の皆さんが儲かるようにするとかが基本ですけれども大切だと思っています。先ほども触れましたが、家を建てる方が717区画ありまして、そのうちの今日で439区画をお渡ししました。残りが野蒜の278区画で進捗率は61.2%、階段で言うと6～7段目というところですが、災害公営住宅は1,010戸建てていいですよとしています。そのうち497戸の建設が終了していますので、49.2%です。来年の3月までに648戸できますので64.2%で、残りはほとんど野蒜だけということになります。だいたい復旧復興は進んできて、次は学校です。生活再建が進むと、今は自分たちが被災している鳴瀬地区のご家庭だけがどちらかという当事者に見えるかもしれませんが、復興が進んでくるとやはり今度は皆さん学校に注目します。復興のメインは野蒜小学校ですが、宮野森小学校と鳴瀬未来中学校までは見通しが立っていますね。

工藤教育長 今日鳴瀬桜華小学校の場所についても教育委員会の中で行政報告として話題には出しまして、問題意識は当然持っています。

阿部市長 そうですか。50年、70年のこの前の雨で意識が一変しましたからね。それは当然ですよ。

(休憩)

そのほか皆さんから何かありませんか。

福田委員 この間の雨の時に、小野地区、牛網、浜市の方々に避難指示が出ましたよね。その時に大塩まで行くのが他人の家に間借りするような感じだったと言ってい

て、やはり家に留まったとか、あとは小野市民センターに行ったけれどもここは避難場所には適さないのではという説明を受けて鳴瀬庁舎の2階へどうぞという案内があったということで、怒ってはいないのですが早く避難所になるような小学校や中学校が欲しいのだなという感じは受けました。

阿部市長 非常に難しいところでですね、私たちが有権者として国会議員を選んでひとつの政府ができて、国民の税金予算の使い道を最終的には国の中で決まるのですが、たとえばコンクリートから人へということがあって、将来のことよりも今日明日のことが最初だよねと言えばそれはその通りですが、でも50年70年のこと、この間のようなことになると誰が責任を取るのですかという結論になるわけです。どちらも正しくて間違っていないのですが、自然というのはいつ来るかわかりませんので、気象庁など天気図はありますが防げるものではないのです。この間は避難勧告だったんですよ。

工藤教育長 避難指示でしたね。

阿部市長 失礼しました、指示でした。小野地区は鳴瀬川が決壊するとかなり大変ですから、学校も非常に厳しいというか危なくて、エリアそのものが厳しいということですよ。私どもの考え方は、それまでは鳴瀬川が決壊というのは防災マップでは危険と位置付けてはいても多分そんなに議論はしていなくて、ただ前の方が貧弱だったんですよ、平成15年以前の方が。この間の雨で平成15年以前の堤防だったら、特に浜市が細くて痩せていて。それから平成15年の北部連続地震で福田以北についてはだいぶズタズタになったのを、あれは国の補正予算で改修されましたので、そういったことからすると堤防もやってきてよかったなど、結果の話ですが思っています。今回避難指示を出して、空振りでもいいなと思ったんです。もし堤防が切れたら、たぶん自宅で避難しなかった人たちは孤立したと思いますので、そういう意味では避難指示は間違った判断ではなかったと思いますが、ただ、今言われたように、皆そうなんですけど近場で何とか自分の命を守りたいとか、近いところに避難したいというのが基本にあります。大塩までだと学区も違うし、旧町の垣根はないといっても矢本地区まで避難したということで、何人かの方は落ち着かないとか余所の家に来た感じだったと思います。理想的には学校イコール避難所ではないけれども今は大体そういう形で、海の近くであれば海からは離れた方がいいわけですから、学校をすぐにおすすめるものではないのですが、車を駐車するスペースなどからすればどうしても学校などが避難所になるというのは、心理的に避難する方にとっては都合がいいというのはあると思います。無責任な話ですが、財源を考えないのであれば皆さんで場所も規模も決めてください、皆さんがひとつになった決まったところでいいですからとなるのですが、これは酷な話ですが、自分が我が家を建てるとして考えてくださいと言ったらぐっと一変すると思います。市長とか役所が財源は考えるのであって自分たちは建ててほしい話を

するだけだと言う方もいて、その気持ちも分からないわけではないですが、私はやはり具現化するためにはきちんと予算の確保がないと、皆さんの前でこういう結果になりますよと言うと期待させてしまうだけなので、耳の悪い方は「市長、建てると言ったよな」という話にいつの間にか変わってしまいますので、その辺は難しいところではあるのですが、理想的には高いところで安全、安心が一番です。命とお金を比べたら絶対命に決まっているんですから。命とお金どっちが大切かと聞いたらみんな絶対命でしょと言いますが、そのお金がいくらなのという話で、そこが一番難しいところです。

鳴瀬地区はこれから宮野森小学校が決まりましたので、鳴瀬桜華小学校については今教育委員会がしっかりしています。自分たちの近いところへの綱引きではなくて、本当に子どもたちの教育効果のある安全、安心なところということで進めていますので、期待に応えたいなと思っていますが、市長としては財源確保が一番大変なところだと思います。この間の雨でなおさらです。

齋藤委員長 どこに建てたとしても、災害の時に孤立するという可能性はゼロではないと思います。小野地区でも孤立する可能性はあるし。

福田委員 自分の身は自分で守るといふ。

齋藤委員長 皆さん車も守りたいでしょうし。

阿部市長 震災の時に100日間、正確には90日間ですが、自衛隊とか国土交通省の方がこの会議室にいました。皆それぞれ地域防災計画を持っていましたが、ほとんど見ることはありませんでした。ですからあの地域防災計画で対応できるなら、ああいう大災害ではないんですよ。要するに問題なのは想定外、自分たちが想定しなかった災害が来た時にどう対応するかということが東日本大震災で問われたわけで、これでいいというのはいわゆるベストのつもりで高台にしたかもしれないけれど、もしかしたら雨で孤立して命は助かったけれどもヘリコプターで救助されるとか、これでいいというのはなかなか難しいです。

齋藤委員長 定川については大丈夫という判断だったのですか。

阿部市長 定川は情報収集したのですが、意外に水位が上がっていませんでした。雨が降ったのは大塩地区ということで、定川は珍しく大丈夫でした。

齋藤委員長 ちょうど引き潮だったので見ていたら、結構引いていて勢いよく流っていたので。

阿部市長 定川は地盤沈下もしたので心配だったのですが。

齋藤委員長 定川の上流が青木川といって、北村を抜けて美里町に行くのですが、出来川の一部が氾濫したので青木川に流したということで、定川の水が増えるのではないかと思いました。

阿部市長 失言になるのですが、合併前に鳴瀬学区と矢本学区がそれぞれ町で一生懸命取り組んできて、平成15年の北部連続地震で被害が大きかったので、耐震補

強をしようということで耐震に力を入れて終わった矢先くらいに東日本大震災が来て、あの耐震したのは何だったんだという、野蒜小も本当に立派になったのですが。そういう中でまた学校を建てるので、皆そんなにお金があると思っていないと思いますが、意外に一般の方たちは国に頼めばお金がもらえると思っている方が結構多いんです。復興交付金とか考えている方も結構いますし。ですがこれまで国の方をお願いする機会もありますが、そこはやはり国も譲らないですね。譲ってもらってもよさそうな気はします。浸水した子どもたちも入るし、していない子どもたちも一緒ということでそこは少し見てもいいんじゃないかと思いますが、そこは私たちの勝手な都合になってしまいます。そういうことがあります。教育委員会でまとまったことを何とか活かせればと思いますが。

工藤教育長 結論ではなくて、状況の説明を申し上げて現状認識を協議したということで、お金の話もちらの案ではこのくらい、こちらの案はこのくらいということは申し上げましたが、今どちらがいいか市長部局ともよく調整をしないと決められませんという事を明示してお話をしました。

阿部市長 合併した時は齋藤委員長もご存じとは思いますが、平成15年の北部連続地震というのは合併の中にはないイメージでした。それから深谷病院の話もそうでしたが、夢と希望が一気にガラガラと崩れて職員の給与カットからスタートでしたから。10年経ってやっとかなという思いです。

工藤教育長 耐震工事が終わっていて本当に良かったなど地震の時に思いました。きっと潰れないだろうと。

阿部市長 耐震したときに良かったと思ったのは、避難されていた方たちが耐震補強して頑丈にしたから、がれきが校舎にぶつかっても大丈夫という気持ちがあったようなので、本当は別の目的でしたが津波の漂流物が校舎に衝突しても大丈夫だったのは役に立ったかなと思いました。

阿部市長 その他、何かありますか。菊池委員さんはいかがですか。

菊池委員 もう1回開催されるというのは大賛成です。

阿部市長 それでは休憩中に情報共有をさせていただきましたので、再開して事務局にマイクをお返ししたいと思います。

8 閉 会 午後4時15分